

風疹ワクチンを含むワクチンの接種状況の概要

性別	1歳	13歳	23歳	25歳	34歳	51歳~
男性	男女とも幼児期に個別接種(1回) ※25年3月末まで5年間は中学1年か高校3年のみ個別接種(追加1回)があった	男女とも幼児期に個別接種(1回) ※25年3月末まで5年間は中学1年か高校3年のみ個別接種(追加1回)があった	男女とも幼児期に個別接種(1回) ※25年3月末まで5年間は中学1年か高校3年のみ個別接種(追加1回)があった	男女とも中学生の時に個別接種(1回)	1回も接種していない	定期接種なし
女性	男女とも幼児期と小学校入学前1年間に個別接種(2回)	男女とも幼児期と小学校入学前1年間に個別接種(2回)	男女とも幼児期と小学校入学前1年間に個別接種(2回)	男女とも中学生の時に個別接種(1回)	中学生の時に集団接種(1回)	定期接種なし



風疹の主な症状の一つの発疹。発疹出現の数日前から感染力がある

▽流行の状況
国内では4月中旬に今の患者数が4000人を超え、去年1年の患者数の約2倍に達した。大半が成人男性だ。その大きな背景にはワクチン接種状況の活発化による大型連休後、一層流行する恐れもあるという。

▽こんな病気
国立感染症研究所によくと、風疹ウイルスによるもので、せきやだ液のしぶきなどでうつる。感染力は麻疹(はしか)や水ぼうそうほど強くはない。患者は、これまでは集団生活に入る1~9歳児が多かったが、近年は成人男性に多い。潜伏期間は2~3週間、主な症状は発疹、発熱、リンパ節のはれだが、「三日はしか」といわれるように数日で自然治癒する人や極軽症な人もいる。同研究所は、感染しても明らかな症状がないまま免疫ができる(不顕性感染)の人が15~30%程度だとみる。県によると「かかったと思っても本当はかかっていない人もいる」という。

▽CRS予防のために
小児感染症を専門とする安曇野市の県立こども病院小児集中治療科の笠井正志医師は「現状では妊娠可能年齢の女性の自己防衛しにくい」とする。▽妊娠したい人はワクチン

接種(接種後2カ月は避妊)▽妊娠したくないが妊娠の可能性がある人は避妊を徹底▽妊娠中の人はワクチン接種はできないので人混みを避け、マスクを着けて移動を勧める。

▽効果的な予防はワクチンだけ
流行が一段と顕著になったこの冬、同病院で講演したウイルス学が専門の名古屋大学大学院医学系研究科の木村宏教授は「治療法がないのでワクチンで予防するしかない」と解説した。国などはワクチン接種の検討を、特に①妊娠前の女性②成人男性でかかったことがない、ワクチンを受けたことがない、両方の記憶がない人③風疹を含むワクチン(MRワクチン)定期接種対象者(1歳児と小学校入学前1年間の子供)と妊婦の家族に2回接種を求めている。

昭和53年度~平成6年度生まれの男女は接種率が低いこと、53年年度以前生まれの男性は定期接種対象外だったこと、男女ともワクチンを接種しても効果が

元気びより

子供を守るろう 現代の感染症事情

笠井正志

先月11日に掲載させていただきました「妊娠中の感染予防」の続きです。特に、②の「(妊娠中は)小さな子どもとフォークやコップなどの食器を共有したり、食べ残しを食べることはやめましょう。」に関して、なんとも言えない違和感を持たれた方もいらっしゃると思います。これは、米国で年間約7000人(無症状感染を含めると約4万人)と、母子感染の中で最多のサイトメガロウイルス母子感染を防ぐための医学的にも有効性が証明されている方法です。サイトメガロウイルス感染のリスクの一つに「上のお子さんが保育園に通っていること」があります。上のお子さんは保育園でお友だちからサイトメガロウイルスをもらいます。上のお子さんにとってはほぼ100%無害ですが、唾液や尿に

上の子にキス禁止??

大量にサイトメガロウイルスを排泄しています。ですので、妊婦さんは上のお子さんの体液(尿・唾液)からの防御が重要になってきます。その具体的な方法は、「頻繁に正しく手を洗う」「食べ物、飲み物は子どもとは別にし、同じ箸やスプーンやフォークも使わないようにする」「子どもとキスをするときは唾液に気をつける。頬や唇へのキスは避けて、その代わりにおでこにキスをしたり抱きしめてあげる」「子どもの体液やおしっこがついてしまったオモチャや家具などは、きれいに拭き取る」など、具体的な方法が「トーチの会」のホームページに詳しく掲載されています。なおサイトメガロウイルス母子感染の最大リスクは「妊婦さんに免疫がないこと」です。しかし、わが国の現状の妊婦検診ではサイトメガロウイルスの免疫の有無は分かりません。さてどうしましょうか。続きは次回にお話しします。

(信州を感染症から守るバイ菌倶楽部世話人、小児科医)

いたわる

風疹の流行

全国的に流行する風疹は、妊娠中の人が感染することで胎児にも病気が起こる母子感染症の一つで、生まれる子供に難聴や白内障、心疾患などの重い先天性風疹症候群(CRS)を起すことがある。流行とCRS発生は一致する。未来の子供を守るために特に妊娠中の人はかからない努力をし、それ以外の人はかからない、うつさない行動や配慮が一層重要になっている。

接種(接種後2カ月は避妊)▽妊娠したくないが妊娠の可能性がある人は避妊を徹底▽妊娠中の人はワクチン接種はできないので人混みを避け、マスクを着けて移動を勧める。

県は、通常の感染症予防と同じ対策を勧めると共に「ワクチン」は2回受けても問題はないので記憶があいまいな人は早めに検討を」と呼びかける。笠井医師は「せきエチケットと、基本中の基本の手洗いを皆がやること

が大事。体調不良者が休みやすいような職場環境づくりも重要」と話す。県によると、県内では風疹単独ワクチン接種は少ないが、1万円程度と割高だが風疹と麻疹の混合ワクチン(MRワクチン)は接種できる状況という。県外では自治体による接種費用補助の動きもあるが、本県では未定だという。

(白沢幸恵)

胎児に影響 男性も配慮を

間、主な症状は発疹、発熱、リンパ節のはれだが、「三日はしか」といわれるように数日で自然治癒する人や極軽症な人もいる。同研究所は、感染しても明らかな症状がないまま免疫ができる(不顕性感染)の人が15~30%程度だとみる。県によると「かかったと思っても本当はかかっていない人もいる」という。

小児感染症を専門とする安曇野市の県立こども病院小児集中治療科の笠井正志医師は「現状では妊娠可能年齢の女性の自己防衛しにくい」とする。▽妊娠したい人はワクチン

接種(接種後2カ月は避妊)▽妊娠したくないが妊娠の可能性がある人は避妊を徹底▽妊娠中の人はワクチン接種はできないので人混みを避け、マスクを着けて移動を勧める。

県は、通常の感染症予防と同じ対策を勧めると共に「ワクチン」は2回受けても問題はないので記憶があいまいな人は早めに検討を」と呼びかける。笠井医師は「せきエチケットと、基本中の基本の手洗いを皆がやること

が大事。体調不良者が休みやすいような職場環境づくりも重要」と話す。県によると、県内では風疹単独ワクチン接種は少ないが、1万円程度と割高だが風疹と麻疹の混合ワクチン(MRワクチン)は接種できる状況という。県外では自治体による接種費用補助の動きもあるが、本県では未定だという。

(白沢幸恵)

健康 アドバイス

ルスが真犯人です。元々は中国の安徽省で2006年9月と11月に発生した未知の感染症が発端で、潜伏期は6~14日。発熱、消化器症状(嘔気、嘔吐、腹痛、下痢、下血)を主徴とし、

づけられました。日本でも、今年になって8人目の死亡が確認されました(4月29日現在)。昨年末には、血液やヒト体液を介しての、ヒトからヒトへの感染の可能性を示唆する症例がアメリカで報告されました。厚生労働省は急遽、感染症法を改

断できても治療法がなく、また予防のためのワクチンもない現状では、これからのウオーキングやハイキングでは、肌を極力露出せず、マダニの咬傷から身を守ることを大切にすね。

(信州大学医学部保健学科教授・川上由行)

新しいダニ媒介性の感染症

日本で普通に見られるマダニが媒介する新興感染症「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)」が注目されています。SFTSは、マダニの刺咬で感染しますが、マダニがこの感染症の犯人ではありません。マダニが媒介するSFTSウイルス学的に、ブニヤウイルス科に位置

情報ナビ